

2021年度 専修大学 高校教員対象 研修プログラム

実施期間：2021年7月28日（水）、7月29日（木）

実施方法：Zoomによるオンライン配信

主 催 専 修 大 学

後 援 文 部 科 学 省
神奈川県教育委員会
千代田区教育委員会

<2021年度 専修大学「高校教員対象 研修プログラム」ご案内>

★主 催：専 修 大 学

★後 援：文部科学省、神奈川県教育委員会、千代田区教育委員会

★実施期間：2021年7月28日（水）、7月29日（木）

★実施方法：Zoomによるオンライン配信

★定員及びお問い合わせ先

教 科	実 施 日	定 員	お 問 い 合 わ せ 先 ※(at)を@記号に置き換えて下さい。
倫 理	7月28日（水）	50名	金子 洋之 hkaneko(at)isc.senshu-u.ac.jp
日 本 史	7月28日（水）	100名	歴史学科 inforekishigaku(at)gmail.com
世 界 史	7月29日（木）	100名	
英 語	7月29日（木）	100名	三浦 弘 HSTEng20(at)gmail.com
地 理	7月29日（木）	50名	熊木 洋太 kumaki(at)isc.senshu-u.ac.jp

※お問い合わせは、上記のEメールのみとさせていただきます。

※電話・FAX等でのお問い合わせはご遠慮ください。

★申込方法

専修大学ホームページより申込フォームに必要事項を入力し、
「送信」をクリックすることで申込手続きが完了となります。

2021年度高校教員対象研修プログラムHP

<https://www.senshu-u.ac.jp/event/nid00013230.html>

★申込締切：7月9日（金） 10：00まで

※応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。当選された方には
受講方法に関する詳細を申込時にご登録いただいたメールアドレス宛
にご案内いたします。（7月16日（金）予定）

※なお、抽選にもれた方へも同日中にメールにてお知らせ致します。

★参加費：無料

※受講（動画視聴）に必要な機器や環境を各自ご用意ください。通信に伴う費用は、
受講者のご負担とさせていただきます。

★受講にあたってのお願い

※パソコンやスマートフォン等の技術的なサポートは行っておりませんので、受講に際して必要な接続
等はご自身で行ってください。

※講座の音声や映像データを録音、録画、画面のキャプチャー、写真として撮影することなどは著作権
上の理由から、お断りします。

※オンライン配信URLやIDなどを第三者に教えること、講座映像等をSNS等に掲載することはお断りし
ます。また、お申し込み者ご本人以外の受講はお断りします。

※ビデオをOff、音声をミュートに設定してから、ご参加ください。

2021年度高校教員対象
研修プログラムHP



< 2021年度 専修大学「高校教員対象 研修プログラム」概要 >

倫 理	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
-----	--------------------------------	---

高校の教育から大学の哲学教育へ、あるいは大学の哲学研究から高校の教育へ

日本史・世界史	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
---------	--------------------------------	---

日本史・世界史研究の最前線

英 語	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
-----	--------------------------------	---

英語の多様性

地 理	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
-----	--------------------------------	----

地理教育に役立つ最新情報

文学部学科紹介



倫 理

高校の教育から大学の哲学教育へ、あるいは大学の哲学研究から高校の教育へ

この研修プログラムの目的は、まず第一に大学での哲学の講義・教育が実際にどのように行われているのかを見ていただくことにあります。そしてそれを起点にして、高校の教育を大学の哲学教育にどう接続するか、大学の研究成果から高校の倫理や公民（あるいは論文指導）で使える材料をどう引き出すか、大学新入生の背景的な知識を大学側がどう踏まえるべきかなどの問題を考え、ご意見をいただいてまいりました。これは、本プログラムの一貫した目的であり、本年もそのような視点から三つの講義を用意いたしました。

期日：2021年7月28日（水）

定員：50名（応募多数の場合は、抽選とさせていただきます場合があります。）

10：30～10：40 挨拶・趣旨説明 担当：金子洋之（文学部教授・副学長）

10：40～12：00 「日本の思想・芸能における死生観」 講師：出岡 宏（文学部教授）

日本の思想は体系的・客観的な学としてではなく、一道を極めることの実践として営まれるという特徴があるといわれることがある。その指摘が正しいなら、日本の思想は暗記しても何の意味もなく——思想というものはそもそも暗記しても意味がないものであるだろうが——何らかの実践あるいは少なくともある種の（動的な）態度として、体得・会得されなければならないのかもしれない。ここでは、日本人の死生観について、民俗のレベル・芸能のレベル・思想家ないし宗教家のレベルといったいくつかの位相において、特にその実践的ないし体得的な側面に注意を払いながら、俯瞰してみたい。

12：00～13：00 昼休み

13：00～14：20 「学問の根源としてのミメシスの快」 講師：宮崎裕助（文学部教授）

模倣といえ、通常、オリジナル（本物）をコピーすること、模写や複写や真似によって再現することと理解されています。しかし人間にとって、そこにはつねに再現以上の「創造の快」が含まれてはいないでしょうか。学問とは、世界認識となるそうした模倣においてこそ新たな創造を可能にする、すぐれて人間に固有のテクネー（技術＝芸術）ではないでしょうか。本講義では、こうした模倣を「ミメシス」と呼び、学問的活動の根源に位置づけてきた思想史を、プラトンからアリストテレス、カント、ベンヤミンにいたる系譜のうちに見出し、学ぶこと／教えることそのものに宿る「快」の感情の起源を考えてみたいと思います。

14：30～15：50 「道德判断と行為の関係について」 講師：佐藤岳詩（文学部准教授）

道德哲学の中でもメタ倫理学においては、行為の正不正や人柄の善し悪しではなく、そこから一步引いたところで、倫理とはそもそも何か、ということが探求される。今回の講義では、動機付けの内在主義・外在主義論争を取り上げる。ソクラテスは「知って悪をなすものはいない」と論じたとされるが、内在主義者は、道德判断は必然的に行為の動機付けをとまなうと主張する。「この行為は道德的に悪い」と心から誠実に判断した人はそれを避ける動機づけをもつということだ。他方、外在主義者は、そうとは限らず、同じように判断しても動機付けをもたない者もいると主張する。両者の間の論争の検討を通じて、現代の道德哲学において、道德判断と動機付け、行為の関係がどのように理解されているかを考察する。

※それぞれの講義には質疑応答時間20分を設けております。本年は懇談会を行いません。

専修大学文学部哲学科
専任教員プロフィール（専攻分野）

（氏名の 50 音順。＊印は今回の研修プログラム講師。）

伊藤博明（いとう・ひろあき）教授	芸術論、思想史
出岡 宏＊（いずおか・ひろし）教授	日本倫理思想史／日本人の自然観、芸道の思想、小林秀雄の思想
金子洋之（かねこ・ひろし）教授	論理学、数学の哲学、言語哲学／直観主義の哲学的基礎、フレーゲ研究
佐藤岳詩＊（さとう・たけし）准教授	メタ倫理学／応用倫理学
島津 京（しまづ・みさと）准教授	芸術学／美術史
高橋 雅人（たかはし・まさひと）教授	ギリシア哲学
貫 成人（ぬき・しげと）教授	現象学、現代思想、舞踊美学、歴史理論／身体論、歴史と世界システムの理論
船木 亨（ふなき・とおる）教授	西欧近代哲学、フランス現代哲学／現代の人間像、生命と機械
宮崎裕助＊（みやざき・ゆうすけ）教授	西洋哲学、ヨーロッパ現代思想、美学と政治、脱構築の思想

文学部 哲学科



日本史・世界史

日本史・世界史研究の最前線

私たち歴史学科の教員は世界史的視野に立ち、個々の問題感心にもとづいて研究・教育にたずさわっています。このプログラムでは、高等学校の先生方との交流・討論を通じて、歴史事実の捉え方や教え方についてともに考えてゆきたいと思います。

日本史科目（講義A／講義B）と世界史科目（講義C／講義D）は、例年のことながら、新たな内容にて開講されます。研修への参加はこれまでどおり、申し込みの時点でA・B・C・Dから全部、あるいは一部分を選んでいただくことが可能です。

今年度のプログラムは、計画時に新型コロナ感染状況が悪化の一途をたどっていたためオンライン開催となり、毎年恒例の図書館見学や学科教員との懇談会はございません。しかし、これまで日程や会場の制約から参加が困難であった先生方にもご参加いただけるのではないかと期待しております。オンライン開催が新たな交流を生むことを願っております。

期日：2021年7月28日（水）・29日（木）

定員：日本史・世界史（講義A～D）各100名程度、両日にわたり複数の講義に応募可

（応募多数の場合は、抽選とさせていただきます場合があります。）

◆ 日本史 7月28日（水）

10:25 開会の辞

10:30～12:10 「一次史料からみた日本古代史研究」（講義A）

講師：中林 隆之（文学部教授）

近年、古代の生の情報を伝える一次史（資）料群を活用した研究が進展し、旧来の日本古代史像が刷新されつつあります。本講義では、代表的な一次史料である正倉院文書や木簡などに関する史料学的検討をふまえた研究成果の一端を紹介し、古代（奈良時代）の権力中枢部の政治動向や、彼らが推進した仏教事業の実態などについて、教科書の叙述とは異なる知見を提示してみたいと思います。

12:10～13:10 昼休み

13:10～15:00 「日本近代史の中の感染症流行」（講義B）

講師：廣川 和花（文学部教授）

新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって、過去の感染症流行についても注目が集まるようになりました。とはいえ、感染症にも様々な種類があり、それぞれの感染症がある「文化」、すなわち特定の時代・地域・文脈の中で持った意味も異なります。本講義では、日本近代を中心に、いくつかの感染症を取り上げ、その歴史上の意義を考えたいと思います。

15:00 閉会の辞 アンケート

◆ 世界史 7月29日（木）

10:25 開会の辞

10:30～12:10 「朝鮮半島における農耕社会の成立—弥生文化のルーツを探る—」（講義C）

講師：高久 健二（文学部教授）

日本列島の弥生時代は稲作農耕文化が定着し、社会構造が大きく変化していく時代です。弥生時代に現れた新たな文化要素の多くは、朝鮮半島との交流を通じてもたらされたものです。本講義では、最新の考古学的成果にもとづいて、朝鮮半島における農耕社会の成立過程を明らかにし、弥生文化のルーツについて探ってみたいと思います。

12:10～13:10 昼休み

13:10～15:00 「近世末期におけるフランス絶対王政の統治—周縁からみた場合—」（講義D）

講師：松本 礼子（文学部講師）

「絶対王政」については、近年の実証研究によって、王権神授説に立脚した強大な王権といったイメージは修正され、ギルドや都市といった社団を介してのみ統治が可能だった点が指摘されるようになりました。それでは、そうした社団的編成が揺らぐ18世紀において、王権はいかに全体を統御しようとしたのでしょうか。この講義では、社会的に周縁に置かれた人々の視点から可能な限り日常的なレベルで考察してみたいと思います。

15:00 閉会の辞 アンケート

2021 年度 専修大学文学部歴史学科

専任教員15名のプロフィール

(50 音順。*印は今年度の講師担当教員。業績は主なものを記載。)

飯尾秀幸（いいお・ひでゆき） 中国古代史

【著書】『中国史のなかの家族』（山川出版社 2008 年）【論文】「秦・前漢初期における里の内と外」（『中国前近代史論集』汲古書院、2007 年）【共訳】「張家山漢簡『二年律令』訳注（1）」～「同（14）」（『専修史学』35 号～48 号、2003 年～2010 年）

小笠原 強（おがさわら・つよし） アジア近現代史

【著書】『日中戦争期における汪精衛政権の政策展開と実態—水利政策の展開を中心に—』（専修大学出版局 2014 年）【共編著】『地域に学ぶ関東大震災』（日本経済評論社、2012 年）【論文】「日中戦争下の「傀儡政権」史」（『歴史評論』第 807 号、2017 年）

鬼嶋 淳（きじま・あつし） 日本近現代史

【著書】『戦後日本の地域形成と社会運動—生活・医療・政治』（日本経済評論社 2019 年）／
【共著】『戦後知識人と民衆観』（影書房 2014 年）／『新生活運動と日本の戦後—敗戦から 1970 年代』（日本経済評論社 2012 年）

志賀美和子（しが・みわこ） インド近現代史

【著書】『近代インドのエリートと民衆 民族主義・共産主義・非バラモン主義の競合』（有志舎 2018 年）【共著】『世界歴史体系南アジア史第 3 巻 南インド』（山川出版社 2007 年）／『インドの社会運動と民主主義 変革を求める人びと』（昭和堂 2015 年）／『わかる・身につく 歴史学の学び方』（大月書店 2016 年）

高久健二*（たかく・けんじ） 韓国・朝鮮考古学（三韓・三国時代）

【著書】『楽浪古墳文化研究』（学研文化社 1995 年）【論文】「楽浪・帯方郡埴室墓の再検討—埴室墓の分類・編年、および諸問題の考察—」（『国立歴史民俗博物館研究報告』151 号、2009 年）／「新羅積石木槨墓の埋葬プロセス—皇南大塚を中心に—」（『国立歴史民俗博物館研究報告』211 号、2018 年）

田中正敬（たなか・まさたか） 朝鮮近代史・日朝関係史

【共編著】『地域に学ぶ関東大震災』（日本経済評論社 2012 年）／『関東大震災と朝鮮人虐殺』（論創社 2016 年）【論文】「植民地期朝鮮の専売制と塩業」（『東洋文化研究』13 号、2011 年 3 月）

田中禎昭（たなか・よしあき） 日本古代史

【著書】『日本古代の年齢集団と地域社会』（吉川弘文館 2015 年）【共編著】『関東条里の研究』（東京堂出版 2015 年）【論文】「諸国校田の展開過程—隠没田勘出制を中心に—」（野田嶺志編『地域のなかの古代史』岩田書院 2008 年）

中林隆之*（なかばやし・たかゆき） 日本古代史

【著書】『日本古代国家の仏教編成』（塙書房、2007 年）【論文】「石作氏の配置とその前提」（『日本歴史』751、2010 年）／「日本古代の「知」の編成と仏典・漢籍—更可請章疏等目録の検討より—」（『国立歴史民俗博物館研究報告』194、2015 年）

西坂 靖（にしざか・やすし） 日本近世史

【著書】『三井越後屋奉公人の研究』（東京大学出版会 2006 年）【論文】「街方社会と三井」（杉森哲也編『シリーズ三都 京都巻』東京大学出版会 2019 年）【共編著】『京都冷泉町文書』全 7 冊（思文閣出版 1991～2000 年）

土生田純之（はぶた・よしゆき） 日本考古学（古墳時代）

【著書】『古墳時代の政治と社会』（吉川弘文館 2006 年）／『古墳』（吉川弘文館 2011 年）
【編著】『積石塚大全』（雄山閣 2017 年）

日暮美奈子（ひぐらし・みなこ） ドイツ近現代史〔歴史学科長〕

【共編著】『＜近代規範＞の社会史—都市・身体・国家—』（彩流社 2013 年）【論文】「海を渡る娘たち—19/20 世紀転換期ドイツにおける女中と婦女売買」（専修大学人文科学研究所編『移動と定住の文化誌』彩流社 2011 年）／「帝政ドイツと国際的婦女売買撲滅運動—西部国境を越える女性の移動から考える」（『歴史学研究』925 号、2014 年）

廣川和花*（ひろかわ・わか） 日本近現代史

【著書】『近代日本のハンセン病問題と地域社会』（大阪大学出版会 2011 年）【論文】「医療アーカイブズ試論：研究倫理・医療情報・スティグマの観点から」（『歴史学研究』952 号、2016 年）【共訳書】アン・ジャンネッタ『種痘伝来—日本の〈開国〉と知の国際ネットワーク』（岩波書店 2013 年）

松本礼子*（まつもと・れいこ） 近世フランス社会史・都市史

【共著】『地域と歴史学—その担い手と実践』（晃洋書房 2017 年）／『〈フランス革命〉を生きる』（刀水書房 2019 年）【論文】「18 世紀後半パリのポリスの特質—『悪しき言説』をめぐる取り組みを手掛かりに」（『西洋史学』第 253 号、2014 年）

南修平（みなみ・しゅうへい） アメリカ史（労働史・ニューヨーク史）

【著書】『アメリカを創る男たち—ニューヨーク建設労働者の生活世界と「愛国主義」』（名古屋大学出版会 2015 年）／【共著】『「ヘイト」の時代のアメリカ史—人種・民族・国籍を問う』（彩流社 2017 年）／【論文】「「ブルックリン・ドジャースを探して」—労働民衆史から捉えたブルックリン・ドジャースとその移転」（『立教アメリカン・スタディーズ』第 34 号、2012 年）

湯浅治久（ゆあさ・はるひさ） 日本中世史

【著書】『中世後期の地域と在地領主』（吉川弘文館 2002 年）／『戦国仏教』〈中公新書〉（中央公論新社 2009 年）／『蒙古合戦と鎌倉幕府の滅亡』（吉川弘文館 2012 年）

文学部 歴史学科



英語の多様性

英語英米文学科では受講者と講師、および受講者同士が交流を深め、有益な情報交換の場を提供するために、本年度も教員研修を実施する運びとなりました。英語が世界の共通語となって久しい現在、国際コミュニケーション英語能力テスト（TOEIC®）でもリスニング問題のスピーカーは英語を母語とする4カ国の出身者で構成されています。また、今年から大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト英語において、イギリス英語の使用が開始されました。今回のテーマである「英語の多様性」は地域や階級の文化的アイデンティティーに基づくもので、その英語を話す人々の歴史を反映しています。講師の研究成果を披露いたしますので、奮ってご参加ください。

期日：2021年7月29日（木）

定員：100名（応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。）

プログラム

10：25 開会の辞

10：30～12：00 “Exploring language varieties by looking at English and Englishes”

講師：ロンコープ・ピーター（Peter Longcope 文学部教授）

This talk will focus on defining and describing different language varieties, paying particular attention to regional dialects, social dialects, ethnic dialects, and language styles. The talk will draw on different examples from English to help to illustrate these different varieties. The talk will mainly give examples of grammatical and lexical differences of these different varieties of English, although some phonological differences may be briefly touched on. In addition, some examples of different discourse features of different language styles will be discussed.

12：00～13：00 休憩

13：00～14：30 「現在のイギリス英語発音～アメリカ英語と比較して～」

講師：三浦 弘（文学部教授）

前半は現在のイギリスとアメリカの標準英語発音を概観します。英和辞典のイギリス英語の発音はほとんどが前世紀末までの容認発音（RP）で、今のイギリス標準発音である General British（GB）とは多くの母音が異なります。また GB の特徴であるかのように思われがちな硬起声（hard attack）や声門音置換（glottal replacement）は General American（GA）にも見られます。GA と GB の発音の相違、および GA に典型的な T の顫動音化（/t/ tapping）や盛り上がり舌の R（bunched /r/）等も説明します。後半では講師が過去 10 年にわたって毎年イギリス各地で、労働者階級の高齢者から収録した音声をお聞かせしながら、地域的な英語の変遷史と多様な発音変種について考察します。

14：30 閉会の辞

専修大学文学部英語英米文学科

専任教員プロフィール

(50音順。*印は今年度の講師担当教員。業績は主なものを記載。)

石塚 久郎 (いしづか・ひさお) イギリス研究、医学史、文学と医学

【著書】*Fiber, Medicine, and Culture in the British Enlightenment* (Palgrave Macmillan 2016年) 【論文】*Enlightening the fibre-woven body: William Blake and eighteenth-century fibre medicine* (*Literature and Medicine* 25号 2006年) 【監訳】『病短編小説集』(平凡社ライブラリー 2016年)

大久保 譲 (おおくぼ・ゆずる) イギリス文学 (特に近代イギリス小説)

【論文】「ジョン・ファウルズ『フランス軍中尉の女』～外来種と小説～」(『二〇世紀「英国」小説の展開』松柏社 2020年) / 「ワイルド、ドイル、秘密の手紙」(『オスカー・ワイルド研究』18号 2019年) / 「手の物語：アーサー・コナン・ドイル『緋色の研究』と『SHERLOCK』第1話「ピンク色の研究」」(『イギリス文学と映画』三修社 2019年)

岡部 玲子 (おかべ・れいこ) 英語学、心理言語学

【論文】「授受動詞文の獲得再訪～コーパス分析～」(『専修人文論集』105号 2019年) / *Lexical V-V compounds in child Japanese: An experimental study* (*Journal of Japanese Linguistics* 34号 2018年) / 「自他動詞の獲得～コーパス分析による一考察～」(『専修人文論集』103号 2018年)

片桐 一彦 (かたぎり・かずひこ) 英語教育学、英語教員養成、言語テスト理論

【論文】「1990年代におこなわれた早期英語教育とその効果～高校3年間の受容語彙知識量の面から効果量とベイズで教育効果を検証する～」(『専修大学外国語教育論集』47号 2019年) / *Speaking proficiencies among Japanese high school EFL students over a three-year period* (*The Japan Language Testing Association Journal* 16号 2014年)

上村 妙子 (かみむら・たえこ) 応用言語学、英語表現論

【著書】*EFL Grammar for Japanese Students and Teachers* (Senshu University Press 2020年) / *Teaching EFL Composition in Japan* (Senshu University Press 2012年) 【論文】*Producing summaries of expository writing: Examining contextual effects* (*KATE Journal* 34号 2020年)

菊地 翔太 (きくち・しょうた) 英語史、歴史社会言語学

【論文】*A comparative study of wh-relativizers in Shakespeare and Fletcher* (*Studies in Modern English* 33 2017年) / *Relativizers in Shakespeare's drama: A sociolinguistic study* (*Studies in English Literature. Regional Branches Combined Issue* 7 2015年)

Hamish Gillies (ギリズ・ヘイミッシュ) 応用言語学、第二言語 (外国語) としての英語教授法

【論文】*Crisis and Transformation in Language Learning Motivation: Applying a Complex Dynamic Systems Theory Approach*. In W. Jackson et al. (eds.) *Crisis, Rupture and Anxiety: An Interdisciplinary Examination of Contemporary and Historical Human Challenges* (Cambridge Scholars 2012年) / *Listening to the learner: a qualitative investigation of motivation for embracing or avoiding the use of Self-Access Centres* (*Studies in Self-Access Learning* 1(3)号 2010年)

黒沢 真里子 (くろさわ・まりこ) アメリカの風景論と墓地の研究

【著書】『アメリカ田園墓地の研究～生と死の景観論～』(玉川大学出版部 2000年) 【共著】『日本大百科全書(ニッポニカ)』(担当項目：アメリカ美術、アーモリー・ショー、連邦美術計画) 2003年 【翻訳】ドルー・ギルピン・ファウスト著『戦死とアメリカ～南北戦争62万人の「死」の意味～』(彩流社 2010年)

末廣 幹 (すえひろ・みき) イギリス演劇 (特にシェイクスピアと17世紀演劇)

【論文】「Stepping Westward ベン・ジョンソン喜劇のトポグラフィ」(『人文学報』342号 2003年) / 「イスラム恐怖を超えて『オセロー』とトルコ化の不安のレトリック」(日本シェイクスピア協会編『シェイクスピア～世紀を超えて～』研究社 2002年)

田邊 祐司（たなべ・ゆうじ） 英語教育学、日本英語教育史

【共著】*Expanding Horizons Book 2*（南雲堂 2021年）／『一歩先の英文ライティング』（研究社 2015年）【論文】「日本英語音声教育史～Edward Gauntlett による日本人教師向けの英語発音指導書～」（『専修大学外国語教育論集』49号 2021年）

道家 英穂（どうけ・ひでお）イギリスの詩、西欧文学の思想史的研究

【著書】『死者との邂逅～西欧文学は〈死〉をどうとらえたか～』（作品社 2015年）

【翻訳】ロバート・サウジー著『タラバ、悪を滅ぼす者』（作品社 2017年）【論文】「ピーター・パンの孤独～J・M・バリーが憧れた家庭像～」（富士川義之編『ノンフィクションの英米文学』金星堂 2018年）

中垣 恒太郎（なかがき・こうたろう） アメリカ文学、比較メディア文化研究

【著書】『マーク・トウェインと近代国家アメリカ』（音羽書房鶴見書店 2012年）【論文】「チャップリンと1910年代アメリカ～「放浪者」像の生成～」（『アメリカ文学』76号 2015年）

濱松 純司（はままつ・じゅんじ） 英語学、言語学（統語論、形態論、関連性理論）

【共著】『プログレッシブ英和中辞典 第5版』（分担執筆）（小学館 2012年）／『オーレックス英和辞典』（分担執筆）（旺文社 2008年）【論文】Movement in the passive nominal and nominal morphology (*The Linguistic Review* 30 2013年)／On the role of the suffix in NP-internal movement (*English Linguistics* 14 1997年)

三浦 弘*（みうら・ひろし） 英語音声学・音韻論

【共著】『朝倉日英対照言語学 2 音声学』（朝倉書店 2012年）／『現代音声学・音韻論の視点』（金星堂 2012年）【論文】「イングランド北部英語における母音の諸特徴」（『実践英語音声学』1号 2020年 アクセス http://pepsj.org/chap_journal.html）【翻訳】ポール・カーリー、インガ・メイス、ビバリー・コリンズ著『イギリス英語音声学』（大修館書店 2021年）

Peter Longcope*（ロンコープ・ピーター） 第二言語習得、第二言語教育学

【論文】Missing the mark? Looking at recent language acquisition policy decisions in Japan through the lens of SLA research（『専修人文論集』97号 2015年）／Language attitudes and language contact in an FL setting（『専修大学外国語教育論集』43号 2015年）／A multivariate analysis of interlanguage differences between learner levels（『英語学論説資料』43号 2009年）

渡邊 真理子（わたなべ・まりこ） 現代アメリカ文学

【共著】『揺れ動く〈保守〉～現代アメリカ文学と社会～』（春風社 2018年）【論文】「幻影のアメリカ～*Being There* における擬似アイデンティティ～」（『アメリカ文学研究』45号 2009年）

【共訳】『スクリブナー思想史大事典』（項目翻訳）（丸善出版 2016年）

文学部 英語英米文学科



地 理

地理教育に役立つ最新情報

地理学を専攻する2名の専任教員が、それぞれの専門分野である自然災害および人口問題の講義を行います。新しい高等学校学習指導要領が2022年度に実施される状況に鑑み、地図・地理情報システムなどの情報利用、持続可能な地域づくり、これからの日本の国土像といった視点を踏まえて、最新の話題や動向を紹介する講義です。

期日 2021年7月29日(木)

定員 50名(応募多数の場合は、抽選とさせていただきます場合があります。)

10:00～10:05 挨拶：山本 充(文学部教授、環境地理学科長)

10:05～11:05 「最近の自然災害とハザードマップ情報」

講師：熊木 洋太(文学部教授)

近年、豪雨や地震による災害が頻発する傾向があり、地理学分野では、航空レーザー測量、地形の3次元表現、“地理院地図”をはじめとするウェブGISなど、新しい技術を活用した災害の調査・研究が進められています。これらに基づき、地形環境と自然災害との関わり、ハザードマップなどの地図情報を活用して地域の災害特性を理解する方策、地域性を踏まえた防災のあり方などについて考えます。

11:15～12:15 「地域人口の今後の動向について考える」

講師：江崎 雄治(文学部教授)

日本のみならずヨーロッパ・アジア各国でも少子高齢化と今後の人口減が懸念される中、人口問題への深い理解がますます必要になっています。本講義ではまず合計(特殊)出生率といった指標等について解説し、長きにわたり人口置換水準を下回る状況がもたらす「減少モメンタム」について理解を深めます。また、若年人口の縮小がもたらす国内・国際移動の停滞等をふまえ、大都市圏・非大都市圏双方における今後の地域人口を展望します。

専修大学文学部環境地理学科 専任教員プロフィール（専攻分野）

（氏名の50音順。＊印は今回の研修プログラム講師。）

赤坂郁美（あかさか・いくみ）教授	気候環境学（身近な気候の成り立ちと変化、気候変動）
江崎雄治＊（えさき・ゆうじ）教授	人口地理学（人口移動、少子高齢化、地域人口の将来像）
苅谷愛彦（かりや・よしひこ）教授	環境地形学（地形発達、山地の環境変動、斜面変動）
久木元美琴（くきもと・みこと）教授	都市地理学（都市の持続可能性、福祉・公共サービス）
熊木洋太＊（くまき・ようた）教授	環境地図学（防災などの応用地理学における地図情報）
高岡貞夫（たかおか・さだお）教授	生態地理学（森の自然の成り立ち、森と人のつながり）
松尾容孝（まつお・やすたか）教授	村落地理学（村の神秘の発見、現代農山村の地域構造）
三河雅弘（みかわ・まさひろ）准教授	歴史地理学（過去の景観や地域、古地図）
山本 充（やまもと・みつる）教授	地誌学、地域研究（ヨーロッパ・アジア）

文学部 環境地理学科



This image shows a full page of blank handwriting practice paper. It features approximately 28 evenly spaced horizontal black lines across the entire page, providing a guide for letter height and placement. The background is plain white, and there are no margins, text, or other markings present.

文部科学省

<http://www.mext.go.jp/>



神奈川県教育委員会

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6556/>



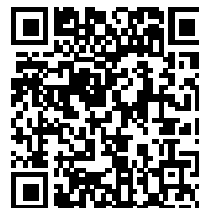
千代田区教育委員会

<http://www.city.chiyoda.lg.jp/kosodate/>



専修大学ホームページ
<http://www.senshu-u.ac.jp/>

専修大学文学部ホームページ
<https://www.senshu-u.ac.jp/education/faculty/letters/>



社会知性の開発をめざす

専修大学 文学部

高校教員対象研修プログラム実行委員会

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

TEL: 044-911-1254